

## 2.診断群分類別患者数（診療科別患者数上位5位）

症例数の多いDPC14桁分類(DPCコード)を、各診療科別に集計しました。項目はDPC14桁分類に対する患者数、平均在院日数(自院・全国)、転院率、平均年齢、患者用パスの有無で、各診療科別に上位5つを掲載しております。

### 定義

最終的な自院の退院を持って1カウントとする。転院は、最終的な退院先が「転院」の患者とする。

●指標に示されるそれぞれの用語は以下の通りです。

◇DPCコード：DPC14桁分類(DPCコード)診断群分類を表すコードです。医師によって決定される主病名と、一連の入院期間中に行われた医療行為の組み合わせによって分類されますので、同じ主病名でも医療行為が違えばDPCコードも異なります。14桁の数字は全てに意味をもち、全国共通のコードとして使用されております。

◇名称：主病名についてどのような医療行為を行ったかを表します。

◇患者数：10未満の数値の場合は、－(ハイフン)で表記。

◇平均在院日数(自院)：入院中の在院日数を症例毎に集計し、その値を症例数で割った平均値です。  
※以降の指標でも同様です。

◇平均在院日数(全国)：厚生労働省より公表されている、全国DPC対象病院の令和4年度における在院日数の平均値です。  
※以降の指標でも同様です。

◇転院率：該当する症例数のうち、当院から他病院に移動して入院継続(転院)することとなった患者さんの割合です。  
※以降の指標でも同様です。

◇患者用パス：入院時に患者さんにお渡しするクリニカルパスの略。

クリニカルパスとは、治療や看護の手順を標準化し、診療の効率化を図る入院診療計画で、検査・治療・手術・ケアなどの内容を時間軸に沿ってスケジュール表(パス表)にまとめたものです(症例によってクリニカルパスは異なります)。患者用パスの「あり」をクリックすると該当のクリニカルパスが表示されます。

※以降の指標でも同様です。

【消化器内科】(全 615 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき1カウントとなります

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
060100xx01xxxx	大腸ポリープ ポリープ切除術	135	2.62	2.64	0.00%	68.13	あり
060340xx03x00x	胆管(肝内外)結石、胆管炎 内視鏡的乳頭切開術等	37	7.62	8.94	2.70%	77.46	なし
060380xxxxx0xx	ウイルス性腸炎	27	5.22	5.70	0.00%	49.56	なし
060360xx01x0xx	慢性膵炎 内視鏡的膵管ステント留置術等	20	7.60	6.42	0.00%	67.20	なし
060140xx97x0xx	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄(穿孔を伴わないもの) 内視鏡的消化管止血術等	17	7.29	10.88	11.76%	68.71	なし

解説

消化器内科では大腸ポリープ、胆管結石、急性腸炎での入院が多くなっています。大腸ポリープの切除術では内視鏡を用いて手術を行います。術後の経過をみて退院になりますが、多くの場合は1泊2日で退院されます。胆管結石では内視鏡的乳頭切開術や内視鏡的胆道結石除去術、内視鏡的胆道ステント留置術を行い、胆石の摘出を行ったり胆管閉塞に対して治療を行います。急性腸炎では、絶食や点滴で腸管の安静や炎症の改善を図ります。

【糖尿病内科】(全 120 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき1カウントとなります

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
10007xxxxx1xx	2型糖尿病 インスリン注あり	51	16.63	14.28	0.00%	66.63	なし
10007xxxxx0xx	2型糖尿病	10	9.10	10.80	0.00%	58.20	なし
100040xxxxx00x	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡	-	-	13.43	-	-	-
100393xx99xxxx	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害 手術なし	-	-	10.58	-	-	-
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症	-	-	13.61	-	-	-

解説

平成28年4月より、糖尿病の診断群分類はインスリン注射の有無や年齢などで詳細に分かれました。高血糖の患者さんにインスリン治療を行います。また、インスリン製剤の自己注射をされている患者さんで、低血糖症状で緊急入院される方もいます。意識障害がある場合は早急な治療(糖の補液)を要することもあります。他疾患で入院し、その後糖尿病の精査目的の為に転科する症例も多いです。退院前には管理栄養士より、自宅での食事量や内容についてきめ細かい説明を行っています。

【循環器内科】(全 394 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき1カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
050130xx9900x0	心不全 手術なし	48	23.02	17.54	6.25%	83.27	なし
050050xx9910x0	狭心症などのカテーテル検査	40	2.60	3.04	0.00%	67.15	あり
050050xx0200xx	狭心症などのカテーテル治療(経皮的冠動脈ステント留置術等)	39	5.77	4.26	0.00%	71.62	あり
110280xx03x0xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 内シャント血栓除去術等	34	2.38	4.23	5.88%	71.88	あり
050030xx97000x	急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞 その他の手術あり カテーテル検査	13	13.69	11.59	0.00%	59.08	あり

解説

循環器内科では、心不全で入院する患者さんが最も多いです。高齢の患者さんが多く重症化しやすい為、在院日数が長くなることもあります。次は狭心症の患者さんで、緊急でカテーテル検査を行い、冠動脈に狭窄等を認めたらステント留置術へ移行となります。狭心症が疑われたり、フォローアップの検査目的での入院も多くなっています。また、人工透析を行っている方の透析シャント閉塞等に対してシャント拡張・血栓除去術を行っています。急性心筋梗塞の患者さんは、冠動脈ステント留置術や冠動脈形成術を行ったあと、リハビリを行います。

【血液内科】(全 228 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき1カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
130050xx97x0xx	骨髄増殖性腫瘍 手術あり	17	2.00	14.02	0.00%	84.24	なし
130030xx99x6xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 化学療法(ベンダムスチン塩酸塩)	10	13.40	9.22	0.00%	60.90	なし
130030xx99x4xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 化学療法(リツキシマブ)	-	-	10.00	-	-	-
130060xx99x4xx	骨髄異形成症候群 手術なし 化学療法(アザシチジン)	-	-	9.97	-	-	-
130040xx99x4xx	多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物 手術なし 化学療法(レナリドミド等)	-	-	20.22	-	-	-

解説

悪性リンパ腫や多発性骨髄腫などの血液疾患は、以前は稀な病気と思われていましたが、近年検査法の進歩に伴い診断される例が増加しております。比較的高齢者に多く見られており、受診のきっかけも発熱、リンパ節腫脹、繰り返す骨折などの強い症状ではなく、健康診断の二次検査から見つかる例もあります。主な治療は抗癌剤治療となりますが、近年新薬の開発が進み、充分戦える病気となっております。当院は高齢者の化学療法に力を入れております。移植を含めた強力な化学療法適応の若年症例は、福島県立医大血液内科に紹介しています。

【神経内科】(全 82 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき1カウントとなります

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
010060x2990401	脳梗塞(発症3日目以内、JCS10未満、発症前Rankin Scale 0~2)リハビリテーション)エダラボン注射	14	22.57	15.97	28.57%	69.21	なし
010060x2990201	脳梗塞(発症4日目以降又は無症候性、JCS10未満、発症前Rankin Scale 0~2)リハビリテーション	-	-	16.01	-	-	-
010060x2990400	脳梗塞(発症3日目以内、JCS10未満、発症前Rankin Scale 3、4又は5)エダラボン注射	-	-	19.98	-	-	-
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満)手術なし	-	-	19.58	-	-	-
030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	-	-	4.79	-	-	-

解説

神経内科では、脳卒中の急性期疾患、特に脳梗塞の入院が最も多くなっています。入院後の治療としては、発症4.5時間以内であればt-P A投与による急性期血栓溶解療法が有効です。時間的にt-P Aの適用がなくても、抗血栓薬と脳保護療法としてエダラボン(活性酸素除去剤)の点滴注入を行い、脳梗塞による脳細胞の障害を軽減させます。入院時から積極的にリハビリを実施し、運動機能の維持回復に努めています。てんかんでの入院は、発作に対して点滴治療を行い、経過を見ます。

【脳神経外科】(全 149 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき1カウントとなります

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
160100xx99x00x	脳挫傷・脳震盪等 手術なし	14	5.71	8.54	0.00%	53.14	なし
160100xx97x00x	頭部外傷 手術あり(ナート等)	10	11.30	10.14	0.00%	78.20	なし
160100xx97x01x	外傷性慢性硬膜下血腫 手術(穿頭血腫除去術)あり 副傷病名(てんかん等)あり	10	14.40	23.17	10.00%	77.20	なし
010040x099000x	非外傷性頭蓋内出血(血腫)(JCS10未満)手術なし	-	-	19.58	-	-	-
010020x001x0xx	くも膜下出血、破裂脳動脈瘤(JCS10未満)脳動脈頸部クリッピング	-	-	31.16	-	-	-

解説

脳神経外科では、救急搬送からの入院が多く、特に頭部外傷での入院が多いという結果でした。頭蓋内出血を伴わない脳震盪などの軽症頭部外傷は経過観察パスを用いて短期入院としています。脳卒中に似た病状で搬送される患者さんの中に慢性硬膜下血腫があり、穿頭術を行った後にリハビリをして自宅退院をめざします。高齢者に多い病気であるため、リハビリ目的に転院となることもあります。脳卒中のうち脳出血は脳神経外科で、脳梗塞は神経内科(脳卒中科)で担当することが多いのですが状況によっては逆もあります。外科的治療の適応になりそうな症例は脳神経外科の入院としています。

【小児科】(全 423 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき1カウントとなります

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
140010x199x0xx	早産、低体重、呼吸障害(出生時2500g以上)	110	5.64	6.13	0.00%	0.00	あり
040090xxxxxxxxx	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症(その他)	38	4.03	5.89	0.00%	1.53	あり
140010x299x0xx	早産、低体重、呼吸障害(出生時1500g以上2500g未満)	31	8.97	10.92	0.00%	0.00	あり
060380xxxxx0xx	ウイルス性腸炎	30	3.67	5.70	0.00%	3.73	あり
150040xxxxx0xx	熱性けいれん	15	3.00	3.64	0.00%	2.27	なし

解説

小児科では出生直後の新生児が低体重や呼吸障害、低血糖等でNICUに入院となる場合が最も多くなっています。次点でRSウイルス等による気管支炎や胃腸炎、熱性痙攣による緊急入院が多くなっています。気管支炎での入院は1歳未満に多く、重症化しやすい傾向にあります。

【整形外科】(全 907 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき1カウントとなります

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折 手術あり(人工骨頭挿入術等)	161	30.31	26.42	50.93%	83.30	あり
07040xxx01xxxx	股関節骨頭壊死、変形性股関節症など 手術あり(人工関節置換術等)	91	22.69	20.14	6.59%	68.22	あり
070010xx010xxx	骨軟部の良性腫瘍(脊椎脊髄を除く。) 四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術等	45	4.02	5.29	0.00%	47.67	あり
070230xx01xxxx	膝関節症(変形性を含む。) 人工関節再置換術等	42	23.64	22.44	7.14%	73.71	あり
160760xx97xx0x	前腕の骨折 手術あり	41	5.02	4.86	0.00%	49.59	あり

解説

最も多いのは、転倒などにより大腿骨近位部骨折を起こした症例です。早期に骨折観血的手術(プレートやスクリューなどの材料を使い骨接合する手術)や人工骨頭挿入術を行い、翌日からリハビリを実施します。状態が落ち着いてきた後は、約50%の患者さんがリハビリ継続目的に転院されています。2番目に多いものは変形性股関節症に対しての人工股関節置換術の症例になっています。当院では「ロボティックアーム手術支援ロボット」を導入しています。医師が操作して動かすもので、手術前の治療計画通りにいたんでいる骨を削ったり、人工関節を設置する補助をします。3番目に挙げられている軟部腫瘍症例では、皮下より深いところの軟部組織内に生じた神経鞘腫、脂肪腫などの切除手術を行っています。数は少ないですが悪性腫瘍もあります。そのため、術前の診断が大切です。当科では正確な術前診断を心掛け、ガイドラインを遵守した治療を行っています。この他、脊椎の骨折や脊柱管狭窄症、すべり症の症例も多くあります。

【外科】(全 554 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき1カウントとなります

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
060160x001xxxx	鼠径ヘルニア(15歳以上) ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	42	5.76	4.59	0.00%	68.81	あり
060210xx99000x	ヘルニアの記載のない腸閉塞 手術なし	39	10.18	9.00	5.13%	67.28	なし
060330xx02xxxx	胆嚢疾患(胆嚢結石など) 腹腔鏡下胆嚢摘出術等	30	7.03	6.07	0.00%	55.93	あり
060150xx99xxxx	虫垂炎 手術なし	23	9.17	7.93	0.00%	51.87	なし
090010xx010xxx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む。))等	23	11.52	9.99	0.00%	61.65	あり

解説

外科では単径ヘルニア、腸閉塞、胆のう疾患での入院が多くなっています。鼠径ヘルニアの手術は腹腔鏡下で行うものと開腹で行うものがありますが、平均5日と短期間の入院となっています。腸閉塞や虫垂炎も多くなっており、絶食による腸の安静や抗生物質の点滴による治療を行う症例が多くなっています。胆のう疾患も胆のう結石に対し腹腔鏡下で胆嚢摘出を行う症例が多くなっています。また乳癌で癌を摘出する手術入院が増えております。

【泌尿器科】(全 581 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき1カウントとなります

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
11012xxx02xx0x	上部尿路疾患 経尿道的尿路結石除去術	69	5.00	5.29	0.00%	60.43	あり
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 前立腺生検施行	45	3.29	2.45	0.00%	72.18	あり
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	29	10.14	13.61	3.45%	63.14	なし
110070xx03x20x	膀胱腫瘍 経尿道的手術 化学療法あり	28	8.43	6.66	0.00%	69.71	あり
110200xx02xxxx	前立腺肥大症等 経尿道的前立腺手術等	23	8.78	7.82	0.00%	72.39	あり

解説

腎結石や尿管結石に対し、細径の内視鏡を用いてレーザーで破碎し結石を除去する手術が多くなっています。同時に両側の結石に対して手術することもあります。前立腺針生検法は、前立腺癌の診断に繁用される検査法であり、超音波で前立腺の状態を確認した後、1.5mmの針を前立腺に向かって約10ヶ所刺し、前立腺の組織を採取します。急性腎盂腎炎や尿路感染症の緊急入院では、重症化すると敗血症になる恐れもありますので、抗生剤や抗菌剤の点滴注射を連日行っています。膀胱癌に対しては内視鏡的に悪性部位の切除を行い、手術後すぐに癌の再発抑制のために膀胱内に抗癌剤の薬液を投入する治療を行っています。前立腺肥大症に対しては、内視鏡下に電気メスを使用し前立腺の組織を小さく切り取る手術を行っています。

【産科】(全 374 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき1カウントとなります

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
120180xx01xxxx	既往帝切後妊娠、骨盤位 帝王切開術等	112	8.30	9.38	0.00%	34.76	あり
120260x001xxxx	分娩の異常(分娩時出血量 2000ml 未満) 帝王切開術等	43	8.77	9.37	0.00%	34.44	あり
120180xx99xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 手術なし	32	9.47	6.62	0.00%	33.25	あり
120200xx99xxxx	妊娠中の糖尿病 手術なし	32	3.38	5.25	0.00%	33.81	あり
120165xx99xxxx	妊娠合併症等 手術なし	25	10.20	10.62	0.00%	33.08	あり

解説

分娩数は減少傾向にありますが、異常分娩、糖尿病といった合併妊娠などのハイリスク妊婦が増加しています。選択帝王切開は主として、既往帝切や骨盤位、緊急帝王切開は妊娠高血圧症や胎盤早期剥離などの母体因子や胎児機能不全などの胎児因子です。周産期システムにおける母胎搬送にも対応しています。

【婦人科】(全 716 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき1カウントとなります

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
120060xx02xxxx	子宮の良性腫瘍 腹腔鏡下腔式子宮全摘術等	187	6.82	5.98	0.00%	43.28	あり
120070xx02xxxx	卵巣の良性腫瘍 子宮付属器腫瘍摘出術(両側) 腹腔鏡によるもの等	61	5.16	6.04	0.00%	40.28	あり
120100xx01xxxx	子宮内膜症 子宮付属器腫瘍摘出術(両側) 腹腔鏡によるもの等	51	5.80	7.13	0.00%	36.80	あり
120090xx97xxxx	生殖器脱出症 手術あり	46	7.33	8.07	0.00%	69.52	あり
120010xx99x50x	卵巣・子宮付属器の悪性腫瘍 手術なし 化学療法(カルボプラチン+パクリタキセル・ドセタキセル注)	37	5.30	4.19	0.00%	57.14	あり

解説

主に婦人科良性疾患においては、腹腔鏡、子宮鏡といった低侵襲性の手術を施行しています。早期退院・社会復帰といったQOLを大切にしています。子宮体癌、卵巣癌においても積極的に加療しています。女性ヘルスケアセンターを立ち上げたこともあり、骨盤臓器脱に関する患者さんが増えてきています。

【耳鼻咽喉科】(全 183 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき1カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
030350xxxxxxx	慢性副鼻腔炎	33	8.06	6.23	0.00%	48.82	あり
030428xxxxxxx	突発性難聴	25	8.92	8.56	0.00%	59.84	あり
030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	18	5.56	4.79	0.00%	64.61	なし
030240xx01xx0x	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 扁桃周囲膿瘍切開術等	17	8.00	8.15	0.00%	35.71	なし
030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	16	5.56	5.69	0.00%	37.31	なし

解説

耳鼻咽喉科では、慢性副鼻腔炎に対しての内視鏡下鼻・副鼻腔手術目的での入院が最も多くなっています。副鼻腔内の広がりにより手術範囲も広がり、入院日数が長くなることもあります。めまい・メニエール病は、救急搬送される方が多く、症状が強いため緊急入院となる場合がほとんどです。扁桃周囲膿瘍は、扁桃周囲膿瘍切開術が必要な場合や、切開をせずに点滴治療を行ったりしていません。

【眼科】(全 330 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき1カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり(水晶体再建術)片眼	287	2.06	2.63	0.00%	76.01	あり
020200xx9710xx	黄斑変性 手術あり(硝子体茎頭微鏡下離断術+水晶体再建術)	-	-	5.80	-	-	-
020220xx97xxx0	緑内障 その他の手術あり片眼	-	-	5.18	-	-	-
020180xx97x0x0	糖尿病性増殖性網膜症 手術あり片眼	-	-	6.31	-	-	-
020220xx01xxx0	緑内障 緑内障手術 濾過手術片眼	-	-	8.97	-	-	-

解説

白内障が全体の約8割と最も多い症例となっています。加齢などにより水晶体の混濁で視力が低下した場合に、混濁した水晶体を除去し代わりとなる人工レンズを挿入します。2番目に挙げられるのが、加齢性黄斑変性です。60~70代に多く、黄斑(外部からの光線が角膜・水晶体により屈折し集中する網膜の中心部)が加齢により変性するため、主に変視(歪視)・中心暗転という形で著しく視力低下をきたす疾患です。また、網膜内境界膜上に形成される病的膜の網膜前膜も症例数が多く、これらの疾患には硝子体手術を行っています。白内障を併発している患者さんには白内障手術も同時に行います。